

第19期(2017年3月期) 決算のご説明

2017/5/11



1

本資料における記載数値について

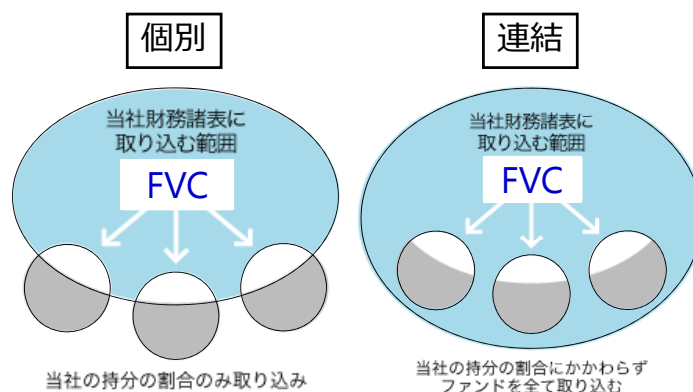


本資料は情報の提供のみを目的としており、当社が発行する有価証券及び当社が管理運営するファンドへの投資勧誘を目的とするものではありません。また、本資料に掲載されている事項は資料作成時点において入手した情報に基づいたものですが、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありません。今後、予告なしに変更することがありますのでご了承ください。

当社の経営成績及び財務状態をよりの確に表すため、本資料では、基本的に投資事業組合の**当社持分のみを連結した個別決算数値を記載**しております。

<連結決算の場合>

- 連結貸借対照表
 - ・自己資本比率が低下
- 連結損益計算書
 - ・営業投資有価証券にかかる損益が増幅
 - ・連結子会社であるファンドからの投資事業組合等管理収入が内部取引とみなされ、相殺消去(管理報酬等)



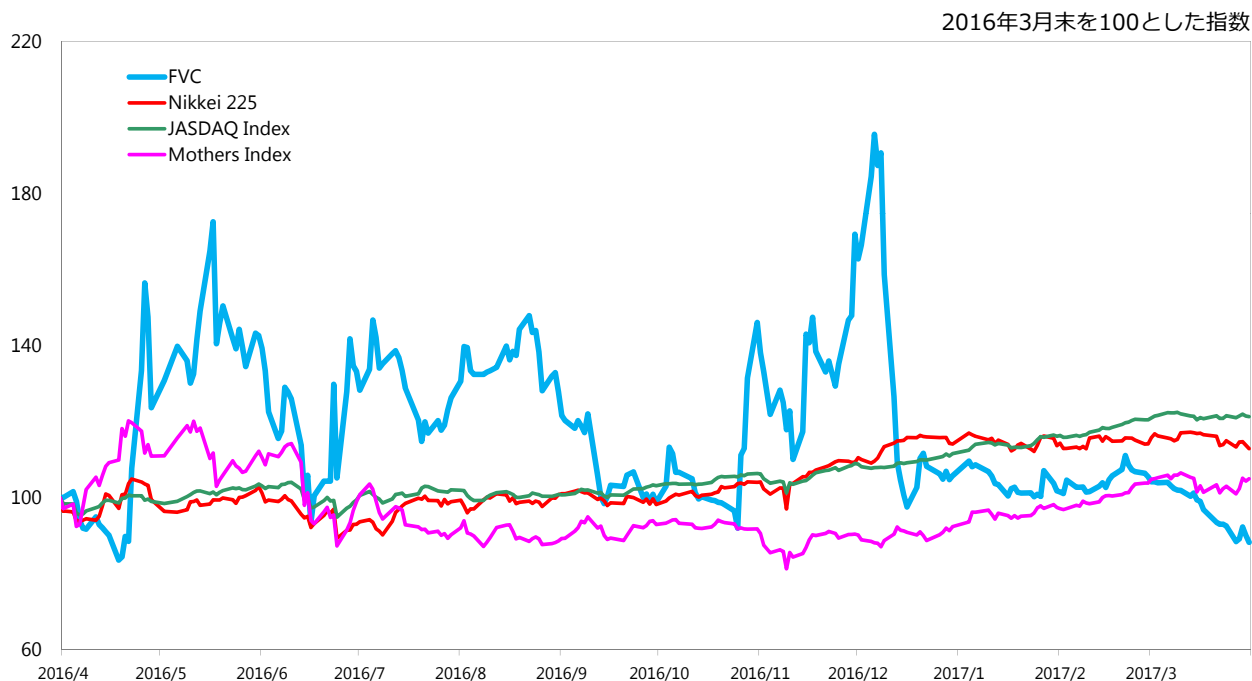
投資事業組合の運用総額に占める当社持分の割合23.7%

2

1. 市場環境 ……P. 4
2. 2017年3月期決算説明 ……P. 9
3. 主な取り組み ……P.17

市場環境

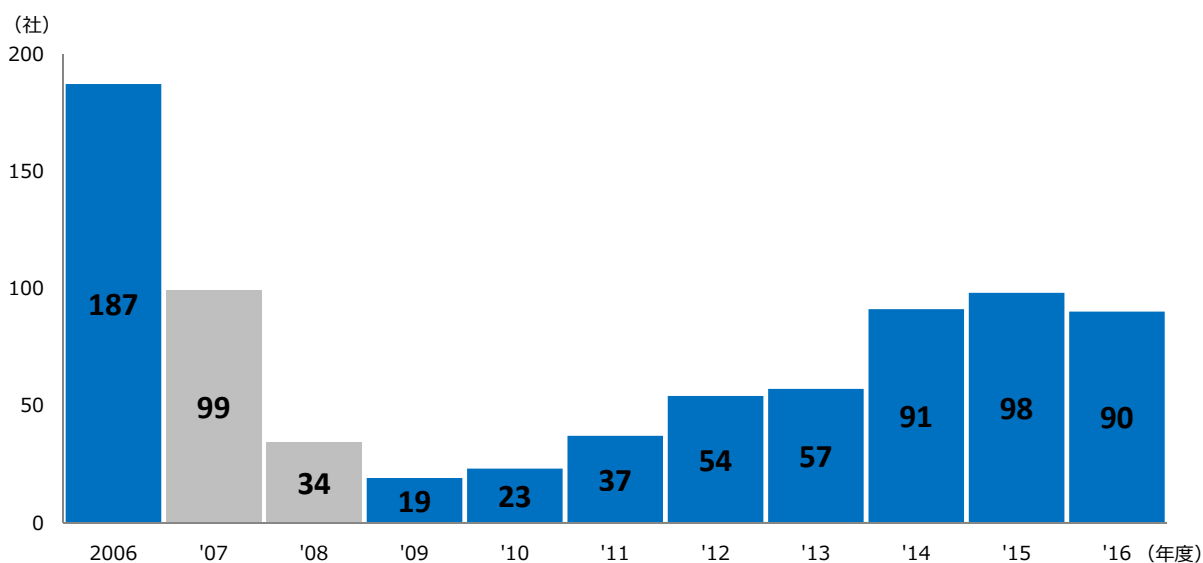
1.1. 株式市場の状況



当社株価は市況と相関なく大きく変動

5

1.2. 新規上場市場の状況(1)



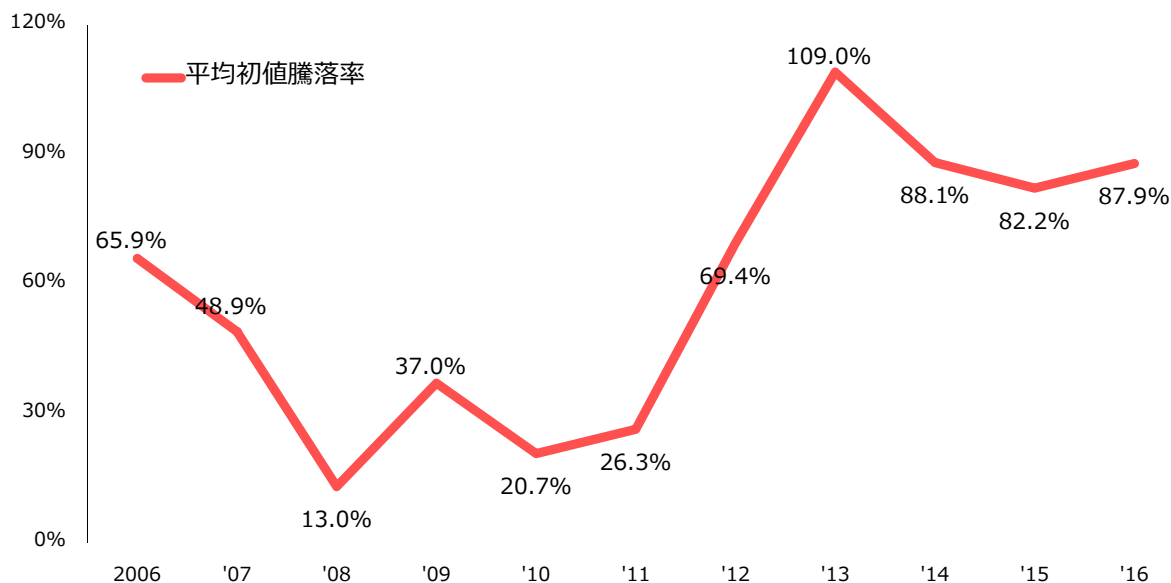
新規上場社数

IPO数は頭打ち。

2006年以前の環境を前提にした投資は非現実的に。

6

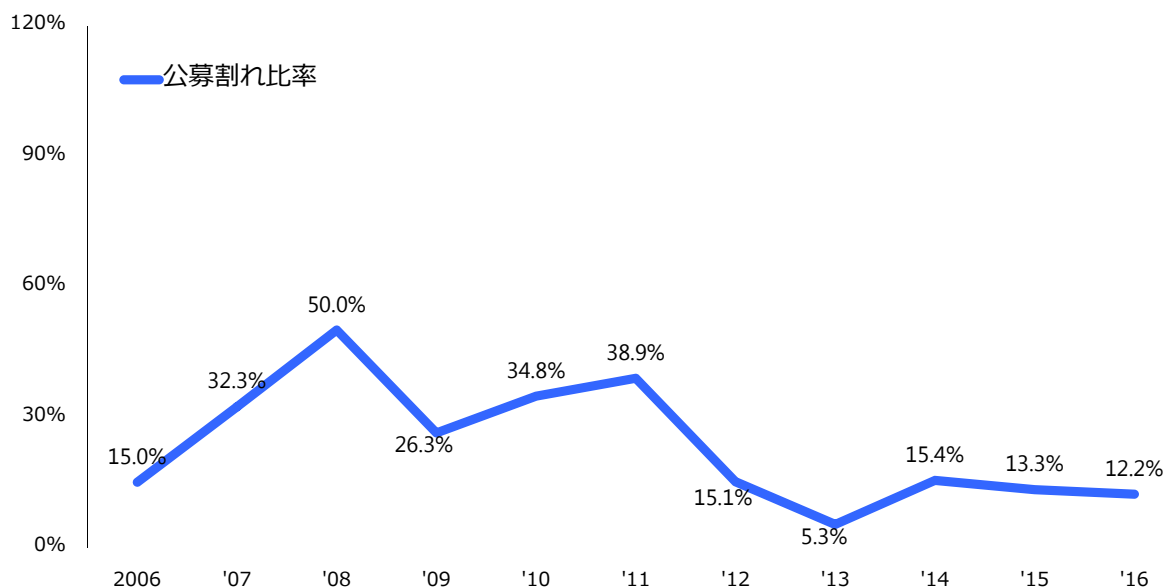
1.3. 新規上場市場の状況(2)



※初値騰落率：{ (初値 - 公募価格) / 公募価格 } × 100 (%)

初値は堅調

1.4. 新規上場市場の状況(3)



※公募割れ比率：新規上場企業のうち、初値が公募価格を下回った企業の比率

初値が公募価格を下回るケースは依然少ない

決算説明



9

2.1. 決算概要(PL)



単位：百万円	第17期 2015年3月期	第18期 2016年3月期	第19期 2017年3月期	対前年同期比	FVC Americas
売上高	601	417	278	△139	2.5
営業損益	△147	10	△373	△383	△41
経常損益	△173	△11	△401	△390	△41
当期純損益	△182	△21	△446	△425	△41

第19期は新規上場投資先が無く、管理報酬減と来期以降の海外展開を含めた先行投資により経費が増加し、**減収減益**。

米国事業は当社の企業価値を向上させるための重要な構成要素であることから、**収益基盤の改善に取り組む**。

10



Robot of Everything

項目	内容
社名	株式会社ZMP
当初上場予定日	2016年12月19日
本社所在地	東京都文京区
事業概要	自律移動ロボットテクノロジー事業
投資時点株価	20円
当初想定発行価格	760円 (11月14日付有価証券届出書ベース)
当初想定投資倍率	38倍

FVCグロース二号ファンド(当社出資比率52.6%)より48百万円の投資

2016年11月14日 マザーズ市場への上場承認

2016年12月8日 上場申請の取り下げを発表

11

2.3. 決算概要(BS)

単位：百万円	第17期 2015年3月期	第18期 2016年3月期	第19期 2017年3月期	対前年同期比	FVC Americas
純資産	102	782	3,231	2,449	△41
総資産	878	1,419	3,365	1,946	41
自己資本比率	11.3%	54.9%	96.0%	41.1	-

第8回新株予約権の発行及び行使により、純資産は前期比大幅に増加し、借入金も全額返済したことから、自己資本比率は大幅に増加。

12

✓資金調達目的

事業領域の拡大、収益基盤の強化及び既存事業への貢献を目指したM & Aを含む投資を強化。

✓資金調達の状況

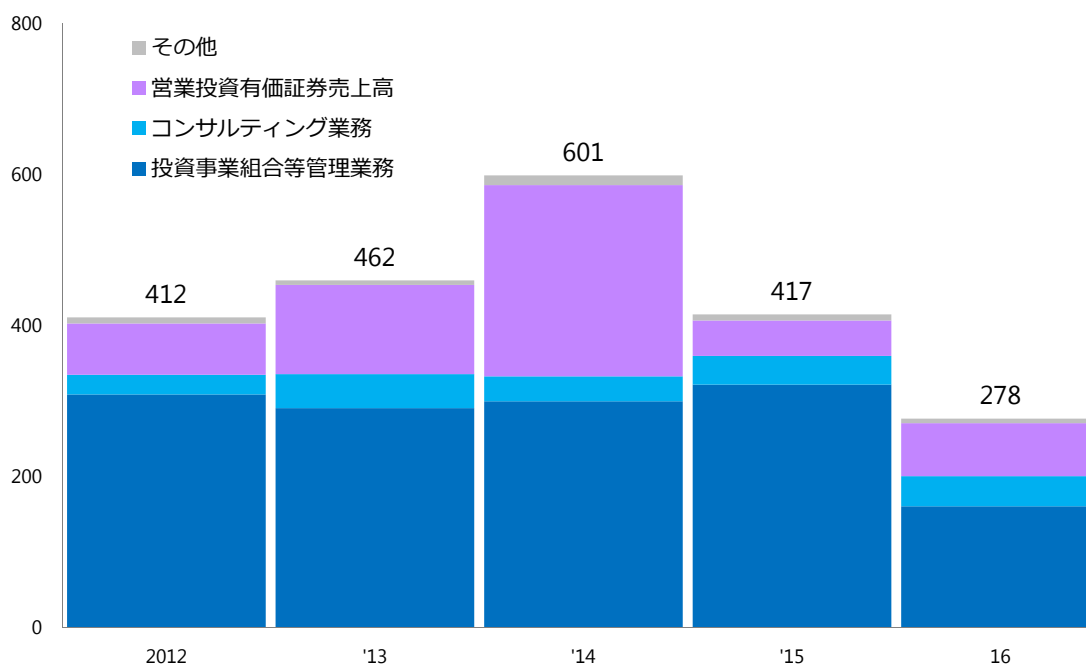
発行した新株予約権全1,775,000個が2016年中に行使され、1,775,000株を発行、2,866百万円を調達。

✓直近の状況

M & Aの実現が遅延したことから、第19期中の支出予定であった時期を第20期の支出予定に見直す。
 なお、現在国内外で複数の事案を検討、交渉中であり、引き続きM & Aを通じた事業ポートフォリオの再構築に注力。

13

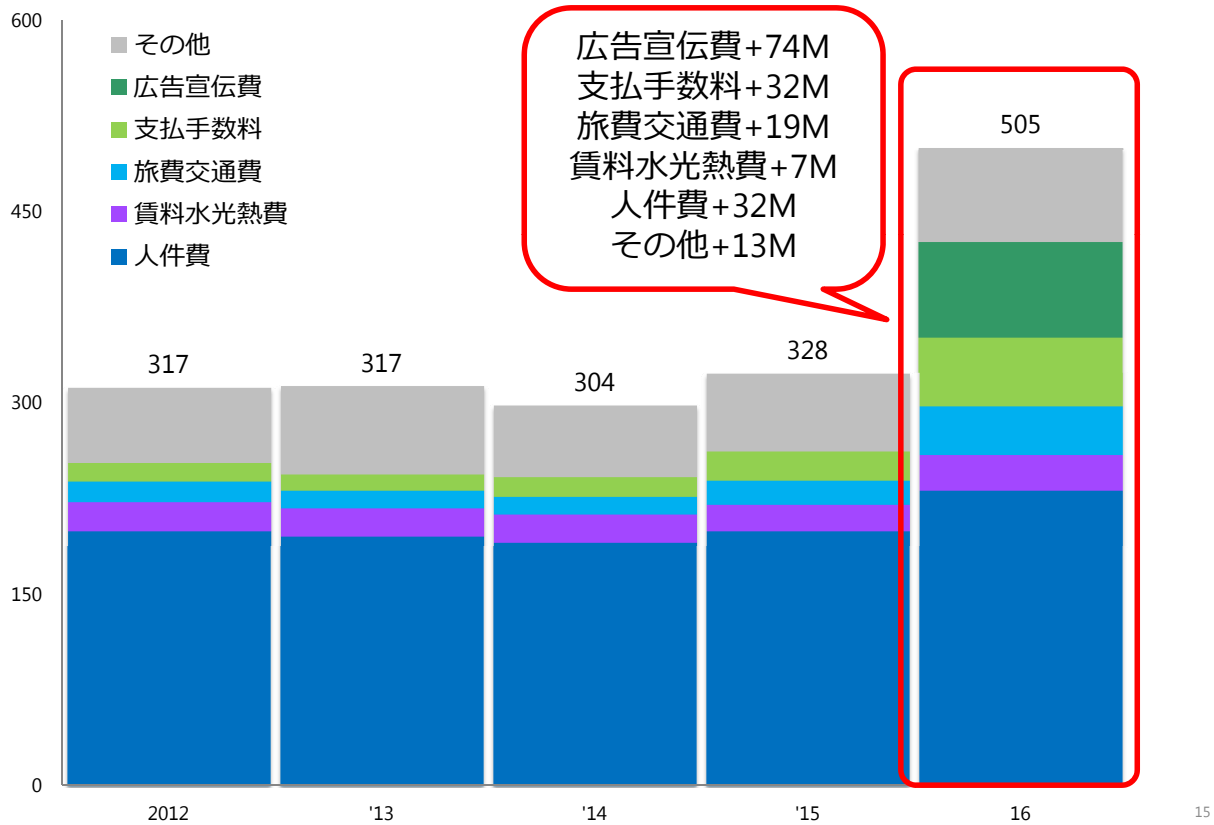
2.5. 売上高推移



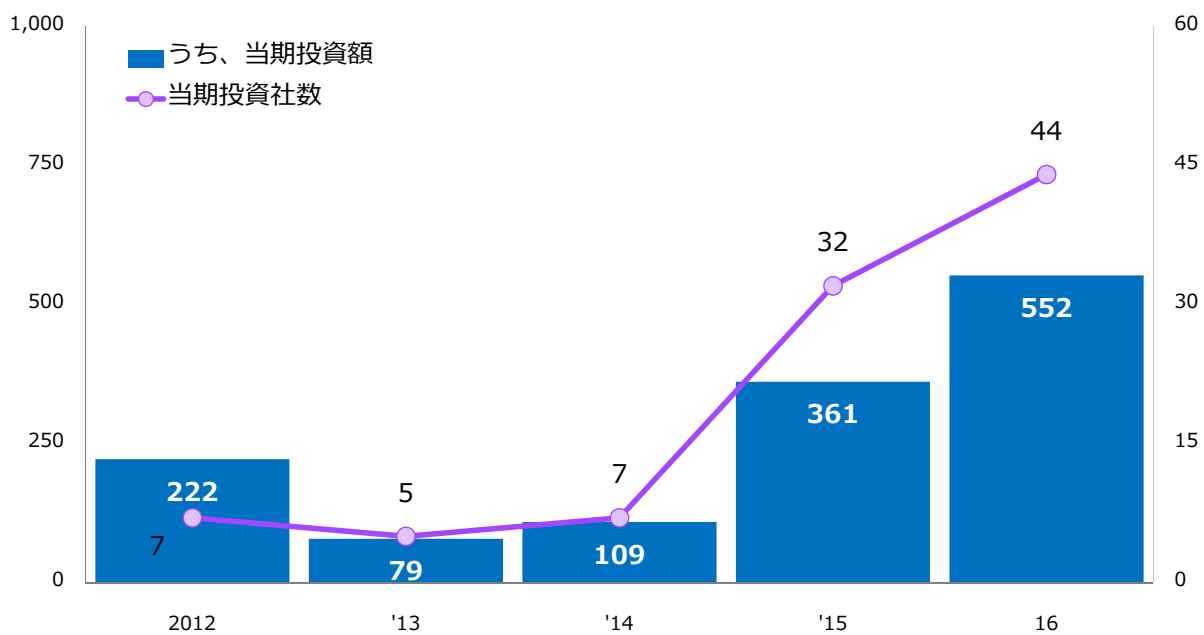
ファンド組成の遅延により、
管理報酬の減少を補うには至らず減収

14

2.6. 営業体制強化



2.7. 投資活動

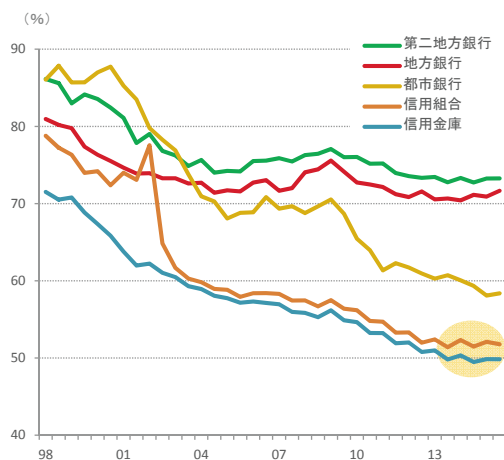


新設ファンドの増加により、
投資社数、投資金額は増加に転じている

主な取り組み

3.1. 地方創生ファンド

金融機関の業態別に見た預貸率の推移



(出所) 中小企業白書2016年版

信金・信組においては、預貸率が**50%以下**に低下している先も多く、昨今のマイナス金利環境下では、経営環境の厳しさが増している

ふくしま夢の懸け橋ファンド
京都市スタートアップ支援ファンド
こうべしんきんステップアップファンド

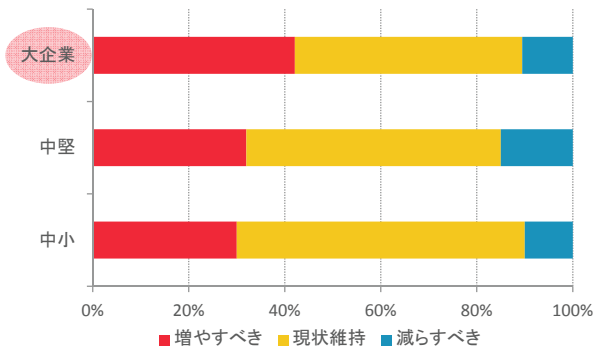
3ファンドを新設した他、

新たな取り組みとして都道府県を跨いだ信用組合共同農業未来ファンドを新設し、

合計11ファンドに

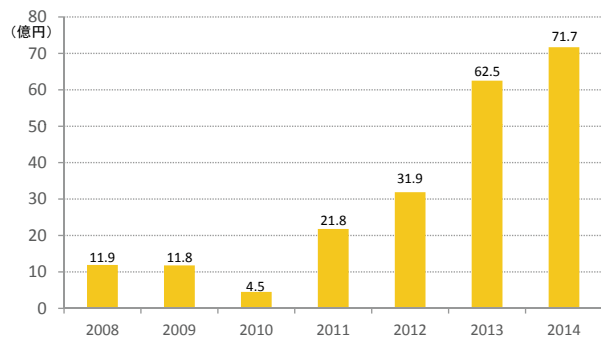


日本企業のオープン・イノベーションについての考え方
「外部との連携の割合について、どのようにお考えでしょうか？」



出所：2010年度産業技術調査（オープンイノベーションに関する企業アンケート）

民間の非金融事業法人のCVC子会社による
VB投資金額の推移(国内外合算)



出所：一般社団法人ベンチャーエンタープライズセンター「ベンチャー白書2015」

大企業の40%超がオープンイノベーションを標榜した外部連携を増やすべきと回答
オープンイノベーションを標榜する事業会社にとって今後CVCファンドのニーズは年々増加するものと予想される
経済産業省も大企業とベンチャーの連携を後押ししており、その間を取り持つVCとしてますますCVCの設立に経営のリソースを集中させる

2017年3月 イノベーション創出ファンド（阿波製紙株式会社）を設立
2017年5月 ウィルグループHRTechファンド（株式会社ウィルグループ）を設立

FVC Americas LLC.

Acceleration Program	Social Lending (ファクタリング)	Crowd Funding (寄付型)	Local Government	Co-working Space	Rockies Venture Fund
Hyperaccelerator 業務提携 2016年5月	資本業務提携 2016年7月	資本業務提携 2016年8月	共同声明 2016年10月	事業譲受 2017年1月	LP出資 2017年3月
アクセラレーション プログラムメソッド の取得 個人投資家との連携	資金調達多様性 地域金融機関との連携 個人投資家との連携	資金調達多様性 地方との連携 個人投資家との連携	地方行政と連携した 経済交流推進 ファンド運営	フォートコリンズに 於けるCo-working Spaceの運営	スタートアップ情報 の収集

上記の取組を、PR強化により最大限発信し、日本国内におけるFVCのプレゼンスを向上
提携先を活用した国内での商品開発を実施

「100年継続企業を創る」目的にかない、
事業シナジー効果が見込まれる企業を買収

想定事業領域

地方創生関連

投資先の
価値向上

ファンド組成
の促進

FinTech関連

早期のM&Aクロージングを目指す